

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日翔館 2階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	令和5年9月7日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500744-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄・JR新札幌駅から徒歩15分程、周辺にはマンションや病院、工場が多くある中にグループホームがあります。3階建ての建物の1階は隣接する協力病院系列のデイサービスが併設されています。その2、3階が2ユニットのグループホームです。併設するデイサービスとは合同で避難訓練を実施したり、行事に相互訪問するなど連携をしています。地域柄、町内会組織はありませんが、屋外で実施する夏祭りなどには、地域の親子連れの方が参加されたり、していましたが昨年からコロナ禍、で屋外での行事はすべて中止となり縮小し屋内で実施する事が余儀なくされましたが入居者様にストレスを感じさせない様に密にならない様、環境整備し季節の行事や誕生会など毎月たくさんの行事を実施しその様子を日翔館だより等で発信しております。運営推進会議には地域包括支援センター、デイサービス、協力病院のソーシャルワーカー、民生委員、自衛消防団員の方たちが参加され多くのご意見をいただいておりますが昨年からには書面にての開催でのみで実施しております。多くのご意見をもとに入居者様の生活がコロナ禍の状況であってもオンライン面会の推進等やADLの向上、QOLの向上の為に充実した生活を過ごされますようスタッフ一同取り組んでおります。また定期的に不適切ケア防止委員会を開催しカンファレンスなどで事例を元に勉強会や研修を実施して介護理念に沿った介護を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホーム日翔館」は、JRや地下鉄駅から徒歩圏内に立地しており生活の利便性が高い事業所である。居間と光庭を中心にした明るく開放感がある回廊型で、居間や廊下にはソファや椅子が置かれていて利用者は好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。壁には季節感のある装飾が施されており、温もりのある落ちついた雰囲気になっている。今月新たに就任した管理者を中心に、全職員で利用者の些細な変化や表情を見逃さないように情報を共有して利用者目線に立ち、その人らしく過ごせるように丁寧なケアを行っている。また、職員はさり気なくサポートしながら、利用者同士がコミュニケーションを取りながら楽しく過ごせるように支援している。調理専門の職員を配置して、利用者に手厚いケアができるような取り組みも行っている。普段から家族が意見や要望を言いやすい環境を作ることで面会時や電話、運営推進会議などで率直な意見が寄せられ、運営やケアに活かされている。職員の育成面では、内部研修後に全職員が研修報告書を作成して理解を深めながら各職員の資質向上につなげている。感染症の収束状況を見ながらパンバイキングや出張握り寿司、外出やボランティアの受け入れなど、利用者の楽しみごとが増えるような活動を再開したいと前向きに考えているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の数か所に基本理念を掲示しており、日常的に確認をしながら日々の介護に従事しています。	事業所独自の基本理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。玄関や事務所に掲示し、カンファレンスで話をすることもある。居間などにも掲示して更に職員間で共有し、日々実践につなげたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では書面にて活動報告しご意見ご希望をいただいております、併設する協力病院には医療相談を随時しています、またデイサービスセンターとは合同で避難訓練を実施しており地域消防団員の方たちの参加もいただいております。	感染症の流行で外部の方との交流はなかったが、今月特別支援学校の実習生を受け入れている。市のリサイクルプラザに段ボール箱を持っていくこともある。今後は、行事に合わせて楽器演奏などのボランティアの受け入れの再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア専門員がご見学やご相談におおじております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面にて運営状況の報告をしご意見等を現場で活かせるようつとめています。	今年度は通常開催で、事業所の現況報告を行っている。家族数名が参加して意見も出されているが、地域代表や地域包括支援センターの参加は得られていない。議事録に次回の会議日程を記入して全家族に送付している。テーマは設定していない。	テーマを記入した会議案内を構成メンバー全員に送付し、参加できない方の意見や質問も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で抱えた問題について、行政判断が必要な場合は随時相談し、事故発生時は所定の書式で報告を行っています。また生活保護受給者様には定期的に面接を受けています。	市役所に管理者変更届や各種書類を提出しているが、ほとんど郵送で行っている。保護課の担当者が来訪した時は、利用者に関する情報交換をしている。現在は相談する事例は無いが、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケア防止委員会を設置し3か月に1度以上の開催、をし半期に1度の割合で職員研修を実施しており身体拘束をしないでいかに事故を防ぐことができるか研修しています。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、研修後は個別に報告書を提出している。カンファレンスで事例に沿って話し合い、拘束につながらないような対応を検討している。不適切ケア防止委員会と研修記録を分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で意識調査アンケートを取りそれらをもとに情報交換を行い常に虐待防止取組んでいます。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、活用されている方がいませんが成年後見人制度についての資料の配布を行い職員に周知徹底しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の十分な説明後、質問事項について理解、納得のいくまで丁寧に説明させていただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からのご意見、連絡があった場合は記録に残し全職員で内容を共有し対応できるように心がけております。	電話や面会時に様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、タブレット端末に記録している。運営推進会議でも意見が出されており、ケアや運営に活かしている。毎月、写真入りのお便りを作成している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間2度の職員面談の期間を設け意見交換を行えるようにしています。また日常的にも気軽に意見交換で来るような雰囲気づくりを心がけております。	管理者は普段から職員の意見や提案をケアや運営に活かしている。入浴日の変更について提案を受け、現在実践しながら検討している。職員の提案は、その都度実際に行いながら適切な方法を全職員で考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の頑張りや、勤務状況を常に把握し常に高いモチベーションが保たれよう、それに繋がる昇給などの整備につとめています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニング研修などで学んだことが現場で活かせることができるようにトレーニングを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークや勉強会の参加がコロナ禍の為なかなか推進できていませんがオンラインでの参加を促しサービスの質の向上に繋げられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様一人一人のニーズに沿ったケアの実践に心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の生活歴やご家族様のご希望を把握し解決すべく問題のを明らかにさせその方にあったケアプランを作成してケアにつなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランで問題解決の為の具体化されたサービスの提供を行い対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員の信頼関係構築につとめております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の絆を大切にともに支えあう関係構築につとめております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み生活に少しでも近づくよう支援しております。	友人が訪ねて来たり絵ハガキが届く利用者もいる。家族と墓参りや納骨堂に出かける方もいる。感染症の収束状況を見ながら、利用者と一緒に馴染みの場所にも出かけたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく、不安なく、人間関係が築かれるよう支援します。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り連絡を取り合い必要に応じて対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを把握し、本人の思いに沿ったケアを心がけております。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握し、職員間で情報共有している。ほぼ1年ごとに「課題分析」シートを作成しているが、趣味や嗜好などの情報が不足している。	「課題分析」シートを活用して趣味と嗜好欄を作成し、具体的に変化を記入して日々のケアや介護計画に活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握、なじみの生に近い環境整備に心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態の把握、残存機能の活用をしその人らしい生活空間の提供につとめています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にアセスメントし課題を明らかにし問題解決のために必要なケアプランの作成につとめています。	利用者担当職員を中心に3か月ごとに評価を行い、6か月ごとに介護計画を作成している。介護計画1表の家族と本人の意向を具体的に聞き取り、介護計画2表に反映させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングの実施、情報共有しケアプランの修正やニーズ充足度を話し合います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズ充足度の内容を話し合い修正や残された課題の対応について話し合っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用をし豊かな暮らしを楽しめるよう時期を見て参加を促していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問看護、訪問診療の実施し健康管理を行っています異常時は医療機関と連携して対応しています	月2回、協力医療機関の往診を受けている。家族と専門医を受診する時は状況を書面で渡すこともある。受診記録はタブレット端末で個別に記録している。	

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に健康状態を把握し異常時は相談、報告し適切な処置が行えるよう心がけております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、主治医から家族様へ治療方針の説明などには同席させてもらい施設での生活に繋がるようにしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての方針、同意をえています、医療機関と連携し安心した終末期に向けた取り組みが出来るように心がけております。	利用開始時に、重度化した場合の対応に係る指針に沿って、事業所の可能な対応や入院期間により退去になる可能性があることを説明している。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え応急手当や初期対応の勉強会に参加でき基本的知識の習得を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練時いろいろな場面を想定し実際に即した訓練を行っています。	年2回、主に昼夜の火災を想定した自主訓練を行っている。消防署へ避難訓練の協力を依頼し、地域住民や法人間との協力体制についても再確認する意向である。救命講習も計画的に進める予定である。	各種災害に応じたケア別の個別対応を話し合い、記録に沿って定期的に対応を再確認するよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、プライバシー保護について常にカンファレンス等で喚起し言葉かけに注意しています。	研修で言葉遣いを学び報告書で振り返りを行い、カンファレンスでも強い口調の声かけになっていないか話し合っている。個人情報などは適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者主導とならないように自己決定できよう声掛けに注意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースが保たれるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい季節や時期にあった服装ができるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや準備などを職員と一緒にに行い楽しく行えるよう支援しています。	法人作成の献立に沿って調理専門職員が食事を作り、年間行事には献立を中止して季節の料理でお祝いしている。今後は好みを選べるようにパンバイキングや出張握り寿司なども考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々に管理記録して異常時の早期発見に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い異常時訪問歯科医に報告しケアの助言をいただいております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のADLに合わせた介助を行い安易におむつや過剰なパット使用にならない様自立支援に努めています。	排泄記録はタブレット端末で行い全員の状態を把握している。日中はトイレを使用し、3割の方は自分で布下着で過ごしている。夜間は数名がベッド上の交換やポータブルトイレを使用しているが自立に向けて工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬のみに頼らず食事や水分摂取にも気を配り、腹部マッサージ等を施行し心地良く排便ができるよう支援します。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を考慮し希望やタイミングに合わせて楽しく入浴できるよう支援しています。	火曜を予備日とし、主に午前中に一人あたり週2回の入浴を支援し、希望があれば午後も可能である。同性介助の意向にも対応している。身体状況に合わせてシャワー浴や浴槽に浸かり、窓がある明るい浴室で心地よく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転や夜間の徘徊があるからとして安易に薬にのみ頼らず昼間の時間の工夫等をし安心して良眠できるよう支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情の理解と管理をしっかりと全ての職員が情報共有し健康管理に努めます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力量に合わせた役割をもって頂き肯定感が持てるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はできていませんがストレスのないように工夫をし季節感が味わえるような行事を行っています。	玄関先や近くの公園に出かける方もいるが、車いす移動は状況を見ながら対応している。受診の際に車窓から眺める程度で、今後は感染症の収束状況を見ながら以前のように季節の外出行事を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では現金所持を基本行わせていません。必要時は立替にて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンライン面会、電話対応、手紙のやりとりの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な居住空間となるように環境整備しています。また季節に応じた壁飾りを作成して楽しみがある空間もあります。	居間の窓と吹き抜けのある回廊型の窓からも光が入り、広々とした共用空間は明るく快適な造りになっている。食卓テーブルと別に団欒できる大きなソファが置かれている。居間の窓から外の景色を眺めて季節を感じることができ廊下にもソファセットがあり、ゆったりと居心地よく過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間が持てたり仲間とお茶を飲めたりできるようホールに工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染み生活に少しでも近づくよう支援しております。	居室は作り付けのクローゼットに物が整頓され、安全に移動ができる。使い慣れた机、テーブルや小物が持ち込まれ、時計、置物、家族の写真、塗り絵作品などが飾られている。床暖房と窓から日差しが入り心地よい室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、わかること、が失わない様自立した生活が送れるよう支援してます。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日翔館 3階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	令和5年9月7日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500744-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄・JR新札幌駅から徒歩15分程、周辺にはマンションや病院、工場が多くある中にグループホームがあります。3階建ての建物の1階は隣接する協力病院系列のデイサービスが併設されています。その2、3階が2ユニットのグループホームです。併設するデイサービスとは合同で避難訓練を実施したり、行事に相互訪問するなど連携をしています。地域柄、町内会組織はありませんが、屋外で実施する夏祭りなどには、地域の親子連れの方が参加されたり、していましたが昨年からのコロナ禍、で屋外での行事はすべて中止となり縮小し屋内で実施する事が余儀なくされましたが入居者様にストレスを感じさせない様に密にならない様、環境整備し季節の行事や誕生会など毎月たくさんの行事を実施しその様子を日翔館だより等で発信しております。運営推進会議には地域包括支援センター、デイサービス、協力病院のソーシャルワーカー、民生委員、自衛消防団員の方たちが参加され多くのご意見をいただいておりますが昨年から書面にての開催でのみで実施しております。多くのご意見をもとに入居者様の生活がコロナ禍の状況であってもオンライン面会の推進等やADLの向上、QOLの向上の為に充実した生活を過ごされますようスタッフ一同取り組んでおります。また定期的に不適切ケア防止委員会を開催しカンファレンスなどで事例を元に勉強会や研修を実施して介護理念に沿った介護を心がけております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の数か所に基本理念を掲示しており、日常的に確認をしながら日々の介護に従事しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では書面にて活動報告しご意見ご希望をいただいております、併設する協力病院には医療相談を随時しています、またデイサービスセンターとは合同で避難訓練を実施しており地域消防団員の方たちの参加もいただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア専門員がご見学やご相談におおじております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面にて運営状況の報告をしご意見等を現場で活かせるようつとめています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で抱えた問題について、行政判断が必要な場合は随時相談し、事故発生時は所定の書式で報告を行っています。また生活保護受給者様には定期的に面接を受けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケア防止委員会を設置し3か月に1度以上の開催、をし半期に1度の割合で職員研修を実施しており身体拘束をしないでいかに事故を防ぐことができるか研修しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で意識調査アンケートを取りそれらをもとに情報交換を行い常に虐待防止取組んでいます。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、活用されている方がいませんが成年後見人制度についての資料の配布を行い職員に周知徹底しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の十分な説明後、質問事項について理解、納得のいくまで丁寧に説明させていただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からのご意見、連絡があった場合は記録に残し全職員で内容を共有し対応できるように心がけております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間2度の職員面談の期間を設け意見交換を行えるようにしています。また日常的にも気軽に意見交換で来るような雰囲気づくりを心がけております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の頑張りと、勤務状況を常に把握し常に高いモチベーションが保たれよう、それに繋がる昇給などの整備につとめています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニング研修などで学んだことが現場で活かせることができるようにトレーニングを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークや勉強会の参加がコロナ禍の為なかなか推進できていませんがオンラインでの参加を促しサービスの質の向上に繋がれるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様一人一人のニーズに沿ったケアの実践に心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の生活歴やご家族様のご希望を把握し解決すべく問題のを明らかにさせその方にあったケアプランを作成してケアにつなげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランで問題解決の為の具体化されたサービスの提供を行い対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員の信頼関係構築につとめております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の絆を大切にともに支えあう関係構築につとめております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み生活に少しでも近づくよう支援しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく、不安なく、人間関係が築かれるよう支援します。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り連絡を取り合い必要に応じて対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを把握し、本人の思いに沿ったケアを心がけております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握、なじみの生に近い環境整備に心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態の把握、残存機能の活用をしその人らしい生活空間の提供につとめています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にアセスメントし課題を明らかにし問題解決のために必要なケアプランの作成につとめています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングの実施、情報共有しケアプランの修正やニーズ充足度を話し合います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズ充足度の内容を話し合い修正や残された課題の対応について話し合っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用をし豊かな暮らしを楽しめるよう時期を見て参加を促していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問看護、訪問診療の実施し健康管理を行っています異常時は医療機関と連携して対応しています		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に健康状態を把握し異常時は相談、報告し適切な処置が行えるよう心がけております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、主治医から家族様へ治療方針の説明などには同席させてもらい施設での生活に繋がるようにしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての方針、同意をえています、医療機関と連携し安心した終末期に向けた取り組みが出来るように心がけております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え応急手当や初期対応の勉強会に参加でき基本的知識の習得を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練時いろいろな場面を想定し実際に即した訓練を行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、プライバシー保護について常にカンファレンス等で喚起し言葉かけに注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者主導とならないように自己決定できよう声掛けに注意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースが保たれるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい季節や時期にあった服装ができるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや準備などを職員と一緒にに行い楽しく行えるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々に管理記録して異常時の早期発見に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い異常時訪問歯科医に報告しケアの助言をいただいております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のADLに合わせた介助を行い安易におむつや過剰なパット使用にならない様自立支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬のみに頼らず食事や水分摂取にも気を配り、腹部マッサージ等を施行し心地良く排便ができるよう支援します。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を考慮し希望やタイミングに合わせて楽しく入浴できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転や夜間の徘徊があるからとして安易に薬にのみ頼らず昼間の時間の工夫等をし安心して良眠できるよう支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情の理解と管理をしっかりし全ての職員が情報共有し健康管理に努めます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力量に合わせた役割をもって頂き肯定感が持てるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出はできていませんがストレスのないように工夫をし季節感が味わえるような行事を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では現金所持を基本行わせていません。必要時は立替にて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンライン面会、電話対応、手紙のやりとりの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な居住空間となるように環境整備しています。また季節に応じた壁飾りを作成して楽しみがある空間もあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間が持てたり仲間とお茶を飲めたりできるようホールに工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染み生活に少しでも近づくよう支援しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、わかること、が失わない様自立した生活が送れるよう支援してます。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム日翔館

作成日：令和 5年 11月 15日

市町村受理日：令和 5年 11月 28日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	既存の課題分析シートを活用しているが趣味嗜好などの情報が不足している。	趣味嗜好がわかるように課題分析シートの見直しをし該当する部分に趣味嗜好を記載しケアプラン作成をする。	ケアプラン更新の際に課題分析シートのコミュニケーション能力、社会との関わりの欄や欄外に趣味嗜好を記入するようにしていく。	6カ月
2	4	運営推進会議に地域包括支援センターの方や地域の代表の参加は得られていない。次回の会議日程を記入して全家族に送付しているがテーマを設定していない。	小さな疑問でもご家族様に聞き地域包括支援センターの方の協力の元、テーマを設定する。	ご家族様で気になることをテーマに取り上げてそのテーマに沿って地域包括支援センターの方やご家族様の意見を取り入れていく。	3カ月
3	35	災害時の地域住民や法人間との協力体制についての再確認。	協力体制はどうなっているのかを再確認し実際に災害が起きた際にどのように対応していくか確認する。	地域の消防団、法人での災害時の体制を確認し各災害に応じた個別ケアを出来るように訓練、話し合いをする。	2カ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。